

宇美町自転車ネットワーク計画(案)に対する意見募集について

町では、歩行者も含め誰もが快適・安全に移動できる道路空間整備を図るため、自転車の通行空間整備による安全性や利便性の向上を目的として、長期的な整備方針である「宇美町自転車ネットワーク計画」を策定します。このたびはその素案を取りまとめましたので、左記のとおり意見を募集します。

【募集要領】

- (1) 素案の閲覧・意見募集期間 2月27日(月)～3月13日(月)
- (2) 素案の閲覧場所
 - ① 町役場総合案内
 - ② 地域交流センター「つみ・みらい館」1階 町立図書館
 - ③ 健康福祉センター「つみハピネス」
 ※素案は町のホームページでもご覧いただけます。
- (3) 提出方法

所定の様式に住所・氏名・電話番号および意見を記入のうえ、次のいずれかの方法でご提出ください。なお、電話による意見の提出はお受けできませんのでご了承ください。意見書は右記①②③の閲覧場所および町のホームページにあります。

- ① 電子メール toshikeiku@town.umiji.jp
- ② F A X 0833-75112 (都市計画課宛)と明記してください
- ③ 郵 送 〒811-2192 宇美町宇美五丁目1番1号
宇美町役場 都市計画課 宛
- ④ 意見 箱 右記①②③の閲覧場所に設置

(4) 提出対象者

町内在住・在勤・在学の方、町内に事務所・事業所を有する個人・法人・その他団体

(5) 意見の取扱い

- ① 提出いただいた意見に付記された氏名・連絡先などの個人情報につきましては、適正に管理し、意見の内容に不明な点があった場合のみ連絡・確認など本案に対する意見募集に関する業務のみに利用させていただきます。
- ② 提出いただいた意見に関して個別に回答はいたしませんのでご了承ください。
- ③ 提出いただいた意見が、記入漏れや所定の様式に即して記述されていない場合には意見を無効扱いとさせていただきます。
- ④ 提出いただいた意見につきましては、それらに対する町の考え方と合わせて、ホームページなどで公表いたします。ただし、個人情報に該当すると判断される箇所については公表いたしません。

問い合わせ

都市計画課 都市計画係 ☎933-30006

年長児の保護者の皆さまへ

「MR2期の予防接種」はお済みですか？

MRワクチンは麻しんと風しんの混合ワクチンです。十分な免疫をつけるために1期(1歳)と2期の2回の接種が必要です。小学校に入る前にMR予防接種をすませましょう。

【対象者】 2期:平成22年4月2日～平成23年4月1日生まれの方

【接種期限】 平成29年3月31日(金)

【持っていくもの】

- ・母子健康手帳(過去の接種記録や接種の回数・間隔の確認に必要です)
- ・予診票手帳(手帳をお持ちでない方は、予診票を町内医療機関に準備しています)
- ・身分証明書(住所・氏名・年齢が確認できるもの、保険証など)

【接種費用】 無料(期限を過ぎた場合は全額個人負担となります)

【町内の接種可能な医療機関】 (予約が必要です)

医療機関名	電話番号	医療機関名	電話番号
いりえ小児科医院	932-9600	岡部病院	932-0025
うみ小児科医院	410-2728	神武医院	932-0188
おかべ小児科クリニック	933-7161	山崎産婦人科小児科医院	933-8000

※町外での接種をご希望の方は、下記まで、お問い合わせください。

問い合わせ

健康づくり課 健康推進係 ☎933-0777

平成28年11月20日(日) 町立中央公民館にて

第18回宇美町少年・少女の主張大会「中学校の部」最優秀賞

中学校の部 最優秀賞

「四匹の子猫」



宇美中学校二年 上田 遥さん

これは、どこにでもある話なのかもしれませんが、自分が実際に直面してみるとたくさん「命について」考えさせられた出来事です。

台風接近間近と伝えられたある日の朝、私たち家族は、祖父母の家へ庭の片づけに行きました。作業を始めてほどなく、母がエアコンの室外機の下に、まだ目が開いていない四匹の子猫を見つけました。祖父母の家は動物を飼っていないので、近所の猫が産んだのだでしょう。

四匹とも毛並みがきれいでとてもかわいらしい子猫でした。私は家で飼いたかったのですが、動物アレルギーの家族がいるので飼うことができません。とても残念な気持ちになりました。

「この四匹の子猫たちをどうしようか」が最初の問題でした。猫を飼いたいと言っていた友達を思い出して連絡を取りました。まもなく「二匹なら飼えるよ」と返事がきました。幸先のいい出足に安心しましたが、もう庭の片づけどころではなく、飼い主探しになりました。

子猫たちのことが心配でたびたび様子を見に行くと、母親らしき猫が戻ってきていました。『子猫たちは何も食べてないので、お乳をのませてほしいな』と思い、少し放っておくことにしました。

時間を置いて見に行くと母猫と一匹元気に動きまわっていた子猫だけが姿を消していました。私の母はその状況に「野生でも生き残れる可能性がある子猫だけを残ってんだね」と言いました。強いものだけが生き残ることのできる野生の摂理、そして残酷な「命の選択」でした。その後、母猫が戻ってくることはありませんでした。

私は残された子猫たちに、罪悪感を持ちました。私たちが見つけさえしなければ、この子猫たちは、親と離れることは、なかったのです。

私も四人兄弟なので、この四匹の子猫たちと、自分たちを重ねて考えてしまい、複雑な気持ちになりました。

「さうに悲しいことが起きました。昼過ぎに様子を見に行くと、子猫が一匹動かなくなっていました。一匹の猫の死に直面し、助けることのできない命もあるのだと、痛感しました。」

四匹の子猫。一匹は新しい家族のもとに、一匹は親元へ、そして一匹は生きることができなくなりました。胸が締め付けられ、とても苦しかったです。

残った子猫は、あと一匹。行く当てがありません。祖母は「動物愛護センターへ連れて行きなさい」と言いました。しかし、私は連れて行きたくありませんでした。なぜなら動物愛護センターには、命の期限があり、それが過ぎると、殺処分になってしまふと知っていたからです。

た動物の里親を探したり、殺処分の状況を伝えたりなど命を救う活動をしています。人間の都合で死にゆく命もあれば、人間が救うことのできる命もあるのです。

そして私はこの残った子猫の命は救いたい、無責任なことはいらないと強く思いました。子猫たちを見つけた一日はとても長いものでした。夕刻、一匹目の子猫を引き取ってくれるという友達の家にお届けに行くと、子猫用のミルクと哺乳瓶を用意して待っていてくれました。こんなにも大切にしてくれる家族に引き取っていただいていた、この子はもう大丈夫だなと思いました。そして、また再会が望めることにも、とても嬉しく思いました。

数日後、同い年のいとこから残った子猫の飼い主が見つかったとの連絡があり、責任を果たせてホッとしました。

この四匹の子猫に出会って私は、命の重さ、自然の摂理を知りました。そして、人間のマナーひとつ、行動ひとつで救える命があることも実感しました。マナーを守って生活し、人間にも動物にも、やさしい社会をつくりたい!! 四匹の子猫との出会いをきっかけに深く考えました。

